

小学六年

国語

解答と解説

1

問一
①
イ
21
⑧
ウ
22
問二
i
オ
23
ii
ア
24
iii
イ
25

問三
役
割
分
担
26
問四
ア
エ
27
問五
エ
28
問六
イ
29
問七
ウ
30

(順不同)(完)

問八
家
の
中
で
は
31
問九
イ
32

問十			
た	の	を	小
の	に	聞	遣
で	、	く	い
少	一	に	を
し	ぼ	ち	止
お	く	が	め
ど	一	い	れ
ろ	が	な	ば
い	宣	い	自
て	告	と	分
い	を	思	の
る	受	つ	言
。	け	て	う
	入	い	こ
	れ	た	と
33	34	35	36

2

問一
ひ
と
39
り
ひ
40
と
37
問二
異
口
同
音
38

問三
1
ウ
2
エ
3
イ
41
問四
ア
イ
ウ
エ
オ
42

(答)

		5		4		3							
⑥	究極	①	存亡	①	オ	①	エ	問九	と	問八	1	問五	大人
	65		60	②	エ	②	ウ		な		ア		人
				③	ウ	③	ア		る	2	自		に
⑦	片舎	②	配属	④	ア	④	オ		と		分の		と
	66		61	⑤	イ	⑤	イ	問十	、		の		っ
									ウ	48	生	問六	工
⑧	録画	③	横暴							49	き		エ
	67		62								る	問七	ウ
⑨	退	④	訓練								実		
	68		63								感		
⑩	量	⑤	慣習										
	69		64										

(配点)

①〔問一〕各3点、〔問二〕各2点、
 〔問十〕7点、他各5点
 ②〔問三〕各2点、他各5点
 ③④⑤各2点

計150点

【解説】

1 ひこ・田中の『あした、弁当を作る。』（講談社）から出題しました。

何かと世話を焼いてくれるお母さんから自由になりたいと思いはじめ、自分のお小遣いで弁当を作るようになったり、お母さんに部屋に入られるのがいやで自分で洗濯をするようになる中学生の男の子の話です。

問一 A2 知識

語句の意味を答える問題です。辞書の意味をもとにして、文章中の意味をとらえましょう。辞書的な意味を外れたものは解答にはなりません。知らなかった言葉は辞書で調べて覚え直しておきましょう。

①「リード（する）」は「（相手に対して）優位に立つ」、あるいは「先に立って引く張る」という意味の言葉です。ここでは、キッチンルームをどのようにするかということについてお父さんが自分の主張を通したことを指しています。

⑧「領分」は自分の権限や能力のおよぶ範囲のことです。自分が思い通りにできる分野、という意味でも使われます。

問二 B1 関係づけ 比較

適当な副詞を空らんに入れる問題です。

i 「ぼく」が急に質問をしたことで父親が少し驚いていることをつかみましよう。直後の「見た」という動詞につながっていることと合わせて、オ「じつと」が当てはまります。

ii 「ぼく」はこの直前の部分で、六行にわたって思っていることを一気にしゃべっています。思っていたことがすべて口をついて出てきており、とちゅうでつかえてもいない様子から、ア「すらすらと」が当てはまります。

iii 父親は、直前の部分で「小遣いは止める」という「ぼく」に大きなダメージを与えるような宣告をしています。そのことを自分自身で「いい考えだろ」と言っていることと、直後の「笑った」という動詞とのつながりを考え、イ「やりと」が当てはまります。

問三 B1 関係づけ 置換

② 直後の部分をふまえると、「父さんが会社へ仕事に行って、母さんが家事と育児をする」ことを四字でまとめたものが入ることがわかります。このことがもう一度話題に上っているのは――線④と⑤の間の部分です。字数条件も合わせると、この部分から「役割分担」という言葉が見つかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問四 B2 具体化 比較

直前で二人が「ぼく」の方を見ていることと、この後「ぼく」がするつもりでの発言内容がポイントになります。直後の場面で「ぼくはもう、母さんに、今までほど世話をし欲しくない」と言っています。この内容は母親にとっては大変ショックなものだと思われまう。「ぼく」もそのことは重々承知してい

るので、緊張きんぱうしているのです。それでも言おうと決心している様子も読み取れることから、アとエが正解となります。イ「両親が受け入れてくれるのだろうか」、ウ「言うか言うまいかギリギリまで迷っている」、オ「自分のわがままさをごまかそうとしている」がそれぞれ誤っています。

問五 B1 具体化 比較

直後の「母親はぼく」といるときはぼくの味方をして、父親がいると父親の味方をするのだなと改めて思った。それが母親のやり方というか、生き方なんだ」が決め手となります。誰だれといっしょにいて、場がどのような状況じょうきょうなのかによって母親の態度は変わっています。この場面での笑顔からそれを読み取って、「ぼく」は「怖い」と感じているのです。したがって、エが正解となります。ア「決して投げ出さず」、イ「相変わらず笑顔を見せている」、ウ「感情の移り変わりが激しい」は、それぞれここで母親の笑顔を怖いと思つた理由としてふさわしくありません。

問六 B1 関係づけ 比較

この場面で「ぼく」は直接的には父親と話しています。したがって、⑤には「父親」が入ります。ただし、「ぼくは、母さんの生きがいのためだけに生きていくわけじゃない」という内容からすると母親に言うべき内容だと考えられます。したがって、⑥には「母親」が入ります。⑦のところで目を向ける相手を変えていることから、ここにも発言を直接向ける相手となる「母親」が入ります。以上のことから、イが正解となります。

問七 B1 関係づけ 比較

任せておけば母親は何でもやってくれるのになぜそれを嫌がるのか、という父親の発言に対して「ぼく」がその理由を説明している場面です。「ぼく」はやってくれるかどうかではなく、それを母親任せにする自分がいやで、自分にできることはなるべく自分でやりたいと考えています。ですから、父親が「やってくれる」と述べている、まさにそのことが「ぼく」にとつてはいやだと感じていることとなります。以上のことから、ウが正解となります。

問八 B1 具体化 関係づけ

父親は大人ですから「意地の悪い子ども」は比喩ひよですが、父親のどのようなところを指して「子ども」と表現しているのかを考えながら本文を読み直しましょう。◎の文も参考にすると、「ぼく」の主張に対して小遣いを止めるという強引なやり方に出ただけでなく、「ぼく」が困るにちがいないとわかっていてうれしそうにしているところが「子ども」で、しかも「意地の悪い」と表現されていることがわかります。父親は「ぼく」の発言を自分への批判ととらえ、仕返しのような形で小遣いを止めるという宣告をし、うれしそうにしているのです。以上のことと字数条件を合わせて本文を読み直すと、⑨「五行後の「家の中では何もせず母さん任せにしている人間にはなりたくない」が「ぼく」の主張であることがわかります。「ぼくは、母さんの生きがいのためだけに生きていくわけじゃない」「ぼくは、母さんの生きがいのためでなく、ぼくのために生きたい」なども二十九字ですが、父親が自分への批判だと感じた内容ではありません。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問九 **B1** 具体化 比較

問八とはちがいで、「ぼく」は子どもですから、この表現は比喩ではありません。どのようなところが意地が悪いのかを考えましょう。「ぼく」は自分の世話を焼きたがる母親に対して真つ向からもう「今までほど世話を欲しくないといい放ち、父親に対しても歯向かって言いなりにならない姿勢を見せています。少なくとも母親には「ぼく」のためを思っているという気持ちがあると思われませんが、それもはねつけています。したがって、イが正解となります。ア「聞き入れるふりをする」、ウ「仲間割れをするのではないかと期待」、エ「自分がしたいことだけを主張し続ける」がそれぞれ誤っています。

問十 **B2** 推論 具体化

父親はこの直後の場面で「少し驚い」ている様子が描かれています。なぜ驚いたのかというと、「それでいいよ」という「ぼく」の反応が予想外だったからだと考えられます。どう考えても厳しい条件である「小遣いは止める」という宣告を「ぼく」が受け入れるはずがないと思っていたのに、それをくつがえして「それでいいよ」と言ったことに驚いているのです。これらの内容を盛りこんで一文にまとめましょう。

※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二

つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

2 鳥羽和久「君は君の人生の主役になれ」(筑摩書房)から出題しました。

大人から与えられたテーマで議論をする子どもたちの様子を、見て筆者が抱いた違和感と、その後の子どもたちの反応から今後大人になるにあたってどのようなことを考えてほしいかという筆者からのメッセージが書かれています。

問一 **B1** 具体化 関係づけ

違和感の正体は、直接的には——線①と同じ文に書かれています。「友達は大切」という考えが無条件に正しい前提として機能しており、誰も疑問を持たないどころかそれをすんなり受け入れて議論が進んでいることが違和感の正体です。違和感の説明は《1》の七行後まで続いていますから、その部分から、筆者が「前提に対する考え」について述べている部分を探しましょう。《1》の九行前に、「友達についての考えなんて、ひとりひとり違って当たり前なのに」という表現が見つかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問二 **B1** 知識 関係づけ

みんなが判で押したように「友達は大切」と同じことを言う様子を表す四字熟語としては、「異口同音」がふさわしいでしょう。二文字目を「句」としないように注意しましょう。

問三

B1 関係づけ 比較

空らんにあてはまる接続詞を考える問題です。前後の内容どうしのつながりに着目し、接続詞そのものの働きと合わせ、てふさわしいものを選びましょう。

《1》の直前では、子どもたちが担任の先生から提示された「友達は大切」という前提を崩すのが難しかった可能性が指摘されています。これに対して直後では、自分の中に疑いが生じたのに口を閉ざしてしまいう子がいるとしたらもったいない、という内容が語られています。前後の内容が反対になっていますから、ウ「でも」が当てはまります。

《2》の直前には、筆者の発言以前には担任の先生が設定した問いに沿って考えを出すことが「正解」だったのが、発言後には筆者の発言に沿った考えを出すことが「正解」に変わった、という内容が書かれています。これに対して直後には、はじめにあった規範性が別の規範性へ変わった、ということが書かれています。表現の仕方は異なっていますが内容は同じと言えるので、エ「つまり」が当てはまります。

《3》の直前には、子どもたちが大人の意見や周りの空気に流されることにはある程度仕方がないし、今後を考えれば必要なことだという内容が書かれています。これに対し直後には、子どもたちが大人の意見に簡単に影響されたように見えても、一面的に非難することはできない、という内容が書かれています。前の内容が後の内容の理由となつていきますから、イ「だから」が当てはまります。

問四

B1 具体化 比較

筆者は、はじめ意を決して「僕は友達はあまり大切だとは思いません」と話し始めた男の子を見て、「わー、すごい子が現れた!」と思いました」と述べています。ところが、この後同じような意見の子が次々と現れます。「友達は必ずしも大切ではない」という結論に子どもたちを誘導しようとしていたわけではないため、筆者は大いに戸惑います。そして、自分の意見を聞いて必死に反応しようとした子どもたちに感心し、さらにそのことについて危うさを感じたと述べています。これらの内容がふくまれているア・エ・オの三つが正解となります。イ「満足した」、ウ「子どもたちは自力で正解を見つけられる」がそれぞれ誤っています。

問五

B1 置換 関係づけ

子どもたちが自分の経験をもとに大人の意見に寄せた発言をすることを、筆者はあまり良いことだと考えていません。そのことは、——線④の直後では「自分を損なう」と表現されています。これに続く部分で——線④と要素が一致する部分をさがしながら読み進めると、六行後に「大人にとつて都合のいい子ども」という表現が見つかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問六

B1 具体化 比較

社会(周囲)に適応する中で大人が失ったものを探しながら——線⑤の周囲を見ていくと、一つ前の段落に「大人になる過程で、多くの人は自分の生きる実感よりも適応(周りに

合わせること)を優先させることで自信を失っていきまます」という一文が見つかります。この一文と合っているものはどれか、という観点で検討すると、エが正解であるとわかります。ア「より高次の結論を出そうとする」、イ「正解」を素早く見つけようとする」、ウ「他の人たちから自立したふるまい方がそれぞれ誤っています」。

問七 **B1** 具体化 比較

筆者が、小五の生徒たちの話し合いについてオシヤレをすることにたとえている表現です。ここでは、「手持ちの洋服」は子どもたちの「知識や経験」、「オシヤレ」は「より高次だと思える結論を発表しようとする」とを指していると考えられます。知識や経験をすぐに増やすことはできません。このことは、次の段落でも「子どもたちが手持ちを増やしながら大切なことを学んでいくのはこれからです」と表現されています。そんな中でも、子どもたちは「良い結論だ」と感じるものをなんとか見つけ、それを自分の意見として発表しようとしています。したがって、ウが正解となります。ア「正解だと認めてもらえる結論」、イ「他の人には出せない独創的な結論」、エ「知識や経験を努力によって増やし」がそれぞれ誤っています。

問八

1 **B1** 理由 比較

「そんな言葉」とは、——線⑦の四行前の「社会に適応できないと生きていけない」を指しています。また、筆者はこれに「そんなことを言う大人は嘘つきですよ」と述べており、

否定的な見解を持っていることもわかります。そのような大人の行動を、筆者は——線⑦直前で「自分を窮屈な枠組みに閉じ込めることでしか生きることができない恨みを、子どもを通して晴らそうとしている」と表現しています。これをふまえて検討すると、アが正解であるとなります。イ「現実を白黒つけずに置いておくことができない」、ウ「自分の気持ちをうまくコントロールしていくことの重要性」、エ「生の可能性を奪われても我慢している」がそれぞれ誤っています。

2 **B1** 具体化 置換

筆者が子どもたちに向けて「○○が大切だ」と主張している部分を探しましょう。すると、《3》の次の段落に「あなたに一つだけ覚えていてほしいのは、あなたはとことん自分の生きる実感を大切にしたいほうがいいということです。」という表現が見つかります。字数条件も合わせると、「自分の生きる実感」がふさわしいということがわかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問九 **B1** 関係づけ

ぬけている文をもとの場所にもどす問題です。指示語や接続語、キーワードに注目して、ぬけている文と内容的に近い内容が書かれている部分を探しましょう。また、実際に文をもどして読み直し、内容的にふさわしいかどうかを確認しておきましょう。「自分独特の生き方を手放す」「これからの人生」という話題が出てきているのは、——線⑤と——線⑥の間にある段落です。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

8 長い単語が省略されている

という組み立ての形をそれぞれ覚えておくようにしましょう。

問十 **B1** 抽象化 比較

本文の内容と合っている選択肢を答える問題です。選択肢の内容と本文のどの部分が対応しているのかを考え、必ず本文と照らし合わせて正誤を検討しましょう。ウは《3》をふくむ段落の内容と一致しています。また、ア「反対の立場から意見を言うように心がけるべき」、イ「曖昧なことを曖昧なままにせずきちんと理解しようとする姿勢が大切」、エ「必ず大人が用意している正解に寄った答えが出てくる」は本文の内容と合っていません。

3 **A1** 知識

文学史の問題です。主な作家と代表作品はセットにして覚えておくようにしましょう。

4 **A1** 知識

熟語の組み立ての問題です。

- 1 上下が似た意味のものになっている
- 2 上下が対の意味になっている
- 3 上が主語・下が述語になっている
- 4 上が下を修飾している
- 5 上が動作、下が動作の対象になっている
- 6 上が「不・無・非・未」という否定の接頭辞で下を否定している
- 7 下に「的・性・化」などの接尾辞がつく